

# Q<sub>2</sub> 東京栄養サミット2020で重要視することは?

## A<sub>2</sub> 世界のリーダーが今後の取り組みについて具体的な誓約を発表することです。

東京栄養サミット2020は、栄養を幅広くとらえるものになります。テーマは「Food, health and prosperity for all (全ての人に食と健康と繁栄)」です。具体的には、①保健サービスと栄養(ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ)、②食環境の改善(フードシステム)、③紛争地などの脆弱地域における栄養対策、④アカウントビリティー(データ整備等を通じた説明責任)、⑤栄養対策に必要な財源確保という五つのテーマについて話し合います。

このため、保健分野だけでなく農業、食産業、環境(気候変動)、教育などマルチセクターでの議論を重視しています。そのため参加者は、各分野における国内外の政府機関、栄養に関係する国連機関、企業、市民社会などマルチステークホルダーとなります。

世界の栄養改善に向けて実効性のあるサミットにするため、今後何を実践していくのかを多様な関係者が誓約(コミットメント)として発表することに重点を置いています。たとえば政府の代表が「何年までに5歳未満児の

発育阻害の割合を50パーセント削減する」、企業が「何年までに栄養に配慮した製品の価格を30パーセント下げる」、NGOが「栄養価の高い作物の生産支援の現場を50か所増やす」といった具体的な方針を発表し、経験や教訓を相互に共有することで、世界の栄養の進展に貢献する会議になればと考えています。

そのために日本政府は、関係者が誓約を考えやすいように、今後取り組むべき鍵となる



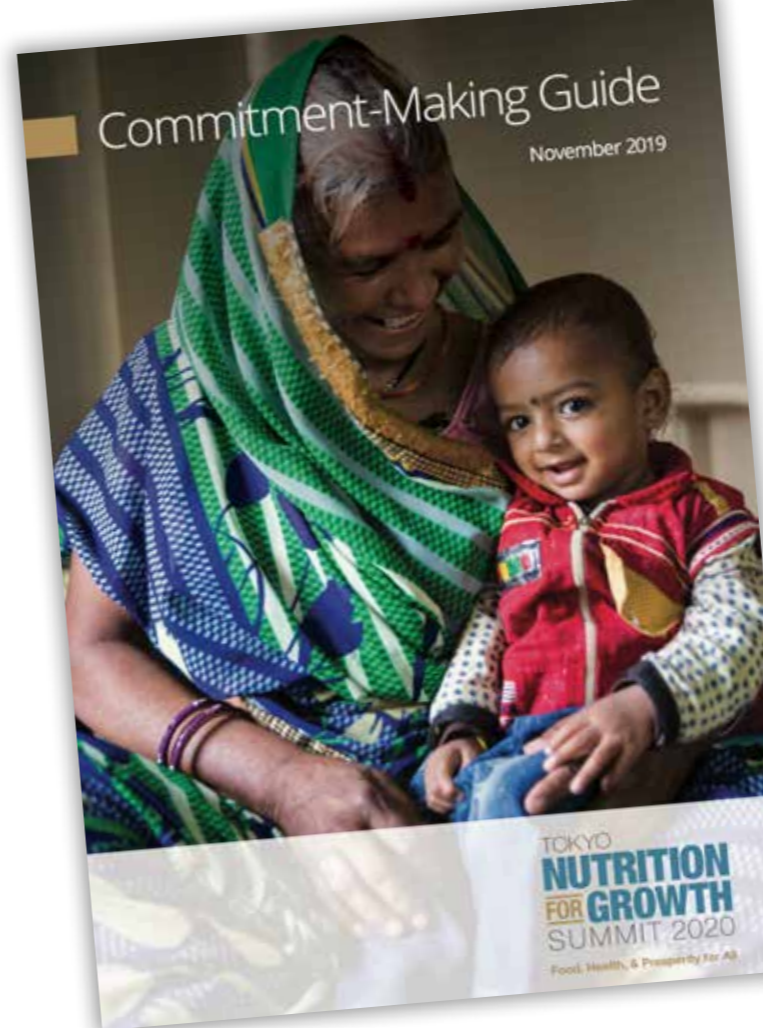
栄養改善・向上には、栄養価のある作物・食品が近くで安価に手に入る必要がある。栄養に配慮した作付け計画など、農業の果たす役割は大きい。

方針や具体的なアイデアが掲載されている『コミットメント作成ガイド』を、国際的な栄養の専門家にも協力を得ながら作成しました。ガイドに沿って参加者は自分たちの国や地域が置かれている今の栄養状態を確認し、それに合った取り組みを進めやすくなります。東京栄養サミット2020以降は、発表された誓約の進み具合を世界全体でチェックする体制づくりを目指します。

栄養改善は、世界中のみんなで行うべき課題だね



©DLE



TOKYO  
NUTRITION  
FOR GROWTH  
SUMMIT 2020  
Food, Health, & Prosperity for All

日本政府が世界の栄養専門家とともにまとめた「コミットメント作成ガイド」。サミットに参加する国や企業のリーダーは、これを参照しながら栄養改善に向けた具体的な政策や行動をまとめる。



©DLE  
外務省ODA  
広報キャラクター  
ODAマン

# 教えて! 外務省! 知っておきたい 国際協力⑬

2020年、東京オリンピック・パラリンピックに合わせて、栄養をテーマにしたサミットが開催される。

今月のテーマ

## 東京栄養サミット2020 Tokyo Nutrition for Growth Summit 2020

# Q<sub>1</sub> どんなサミットなの?

## A<sub>1</sub> オリンピックの年に、世界の人々の栄養について各国政府や国際機関、企業、NGOなどのリーダーが集まって議論します。

栄養は、人が生きていくうえで必要不可欠なものです。飢餓や貧困による低栄養がまだまだ大きな課題である一方、先進国、途上国の区別なく、過栄養や栄養の偏り、気候変動に適合した農業、食品ロスなども課題となっています。栄養は世界中のみんなで行うべき課題です。

栄養状態の改善は、17ある持続可能な開発目標(SDGs)のうち目標2に該当し、さらにその他計12の目標達成に深く関係します。保健分野だけでなく、農業や流通、水・衛生、ジェンダーなど多くの分野と関連しているため、各分野が連携して栄養改善を進めることがSDGs達成に不可欠です。

こうした気運の盛り上がりきっかけは、2012年のロンドンオリンピック・パラリンピックでした。世界的なスポーツの祭典に合わせ、地球規模で栄養という課題に取り組もうと、キャメロン・イギリス首相(当時)が主導し、

13年に94の政府・関係機関が出席した「成長のための栄養(N4G)サミット」が開催されました。16年はリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックに合わせてブラジルが栄養サミットを開催、そして20年、日本政府が東京栄養サミット2020を開催することになりました。



Scaling Up Nutrition (SUN) は、栄養改善のために政治的な関わりと説明責任を強化していくという枠組みであり運動でもある。2019年10月にSUNがネパールで開催したグローバル・ギャザリングでスピーチする日本政府代表(西郷在ナール大使)。

# Q<sub>3</sub> 世界の栄養改善に向けて、日本の経験を通じて貢献できることは?

## A<sub>3</sub> 日本の食文化や栄養政策などを共有することです。

日本の健康的な食文化を紹介したり、政策面でも、マルチセクターの官民連携による栄養改善を行いながら健康長寿社会を達成してきたノウハウを共有したり、さまざまな形で世界の国々に貢献できます。

具体的には、日本の食文化を海外に発信することです。今回の栄養サミットでは過栄養の問題も大きなテーマとなる予定ですが、日本における肥満者の割合は他の先進国に比べて格段に低く、それには日本の健康的な食生活が寄与しているのではないかと、世界から大きく注目されています。

また、日本は学校などでの食育活動が盛んです。「主食・主菜・副菜などをうまく組み合わせたバランスのよい食事をしましょう」と小

学校で教わりますし、管理栄養士がメニューを考えた給食が多くの学校で提供されています。さらに、専門職やボランティアが地域住民を対象に食生活改善の支援や指導を行うこともあります。なお、日本で行われている食育や栄養指導の経験を生かして、各国で栄養改善の援助を行っています。

このほか企業のカもアピールポイントです。安心・安全な素材を使った食品、不足する栄養を補う食品などは、企業のカなくして手に入れることはできません。また、社員の健康を考えたメニューを社員食堂で提供する企業も増え、それは海外にも広がっています。

日本もかつては食料不足に伴う低栄養や食塩過剰摂取が課題だった時代もあります

が、さまざまな取り組みを通じて乗り越えてきました。東京栄養サミット2020では世界が目指す方向をまとめつつ、日本の経験や取り組みを伝えていきます。



JICAはバングラデシュで草の根技術協力事業「地域住民参加による持続可能な学校給食モデルの確立」を実施(2017年~)。子どもたちが食べているのは栄養満点の大豆入りケチュリ(おじや)の給食。

答えてくれた人



外務省  
国際保健政策室 課長補佐  
稲岡恵美(いなおか・えみ)さん  
JICA、国際協力銀行、国際機関などでアジアやアフリカの保健分野の援助に携わり、2007年に外務省入省。18年から2度目の国際保健政策室勤務。世界の健康問題に対して日本政府がどのように貢献するかを検討している。現在栄養サミットを準備中。